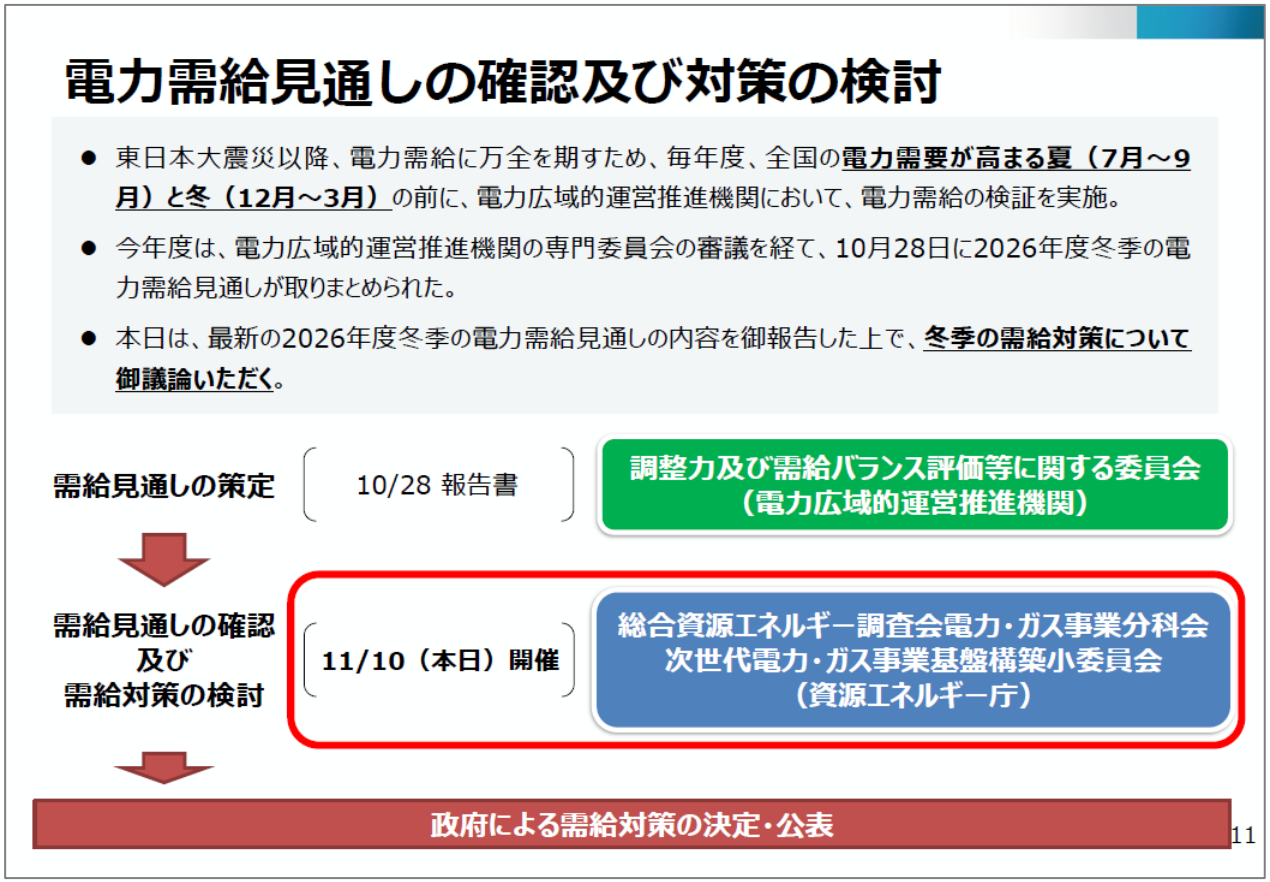
北海道エリアの2026年度冬季の電力需給見通しについて

２０２６年１１月１１日
北海道電力ネットワーク株式会社

1　電力需給検証について

ほくでんネットワーク

- 電力需給対策に万全を期すため、電力広域的運営推進機関において、全国の電力需要が高まる夏と冬の電力需給について検証を実施しています。
- １１月１０日に開催された経済産業省の「次世代電力・ガス事業基盤構築小委員会」において、２０２６年度冬季需給見通しが報告され、これを踏まえた電力需給対策が取りまとめられました。



出所：総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 第７回次世代電力・ガス事業基盤構築小委員会［2026年11月10日開催］資料７

２　2026年度冬季（今冬）の需給見通し

ほくでんネットワーク

- 北海道エリアの今冬需給見通しは、１０年に１度の厳寒を想定した電力需要に対して、最も予備率の低い期間においても電力の安定供給に最低限必要とされる供給予備率３％以上を確保できる見通しです。

【今冬需給見通し（北海道エリア）※1】

	期間※3	全国における最小予備率時※2（19時）								（参考）全国における最大需要発生時（10時）							
		12月		1月		2月		3月		12月		1月		2月		3月	
		前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半
供給力	[万kW]	562	588	552	559	563	555	574	534	577	592	586	604	615	594	586	567
需要	[万kW]	501	501	491	524	527	464	464	432	488	488	521	570	573	500	500	454
供給予備力	[万kW]	61	87	61	35	36	91	110	102	89	104	65	35	42	94	86	113
供給予備率	[%]	12.3	17.3	12.5	6.6	6.9	19.7	23.8	23.7	18.2	21.2	12.5	6.1	7.3	18.7	17.2	24.8

※1 電力広域的運営推進機関が広域的な視点に基づき、連系線の活用（各エリアの予備率が均平化するように地域間連系線を通じて、予備率が高いエリアから低いエリアへ供給力を振り替えること）等を考慮して評価している。（４ページ参照）

※2 近年は再エネの導入拡大に伴い、太陽光発電の出力が減少する夕方の時間帯に予備率が低下する傾向があることから、2024年の検証以降、最大需要時と最小予備率時の2つの断面で需給バランスを確認している。

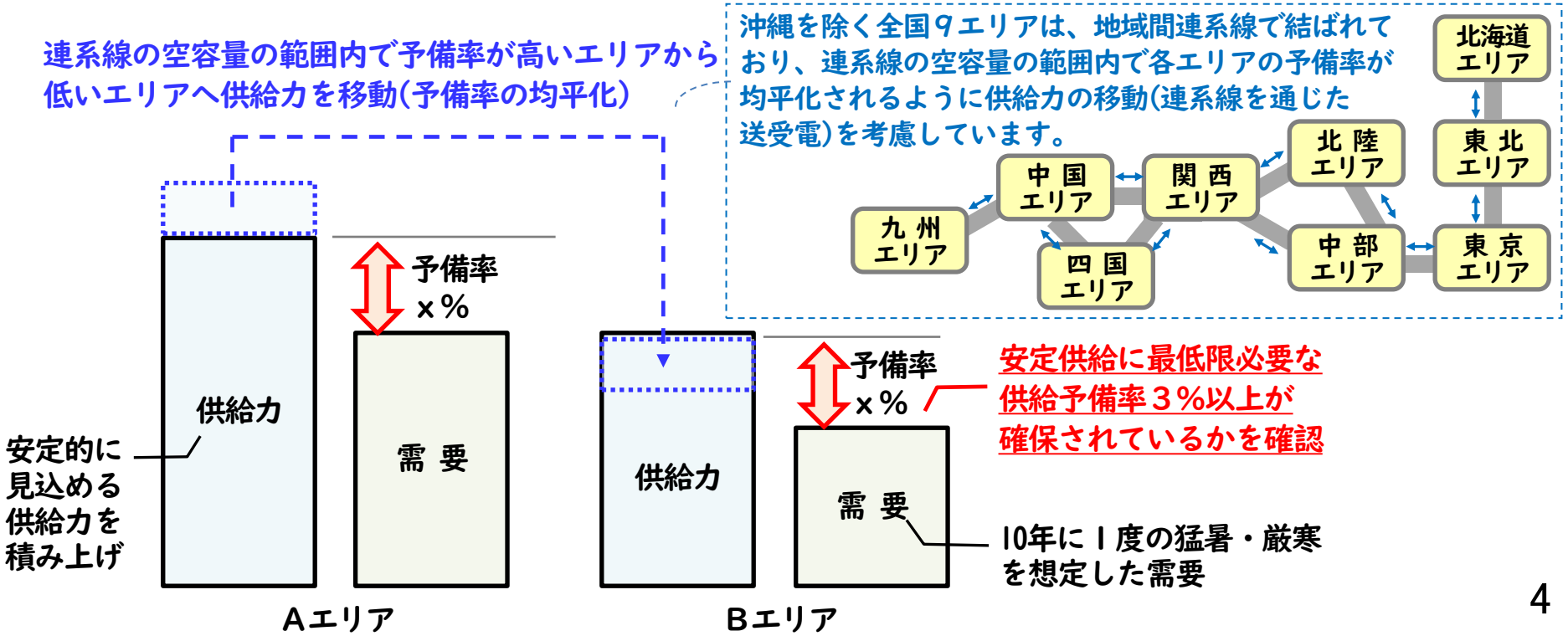
※3 2026年度夏季需給見通しから、月を前半・後半に区分して需給見通しを算定している。

【参考１】電力需給検証の概要

ほくでんネットワーク

- 猛暑・厳寒による冷暖房需要の増加を見込んだ需要想定と安定的に見込める供給力の積み上げ結果を比較し、安定供給が可能かどうかを検証するものです。
- 電力広域的運営推進機関が広域的な視点に基づき、連系線の活用等を考慮して需給バランス評価を行っています。
- 需給バランス評価は、最大需要時に加えて、太陽光の出力が減少する時間帯の予備率も確認するために最小予備率時の評価も行っています。

【需給バランス評価のイメージ】



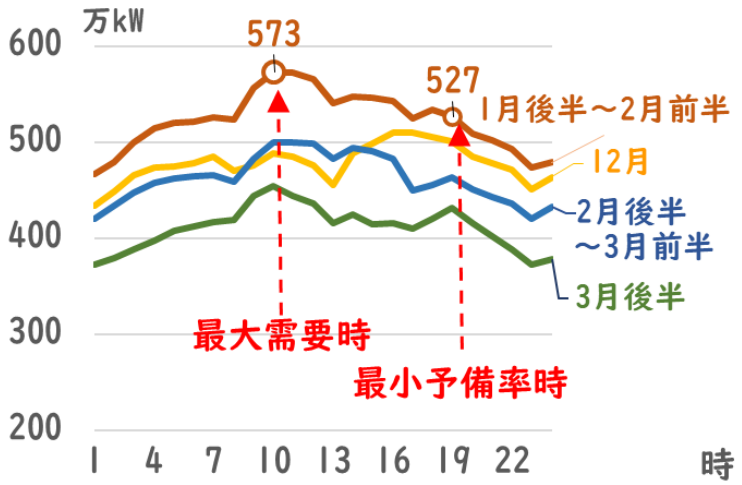
【参考１】電力需給検証の概要（つづき）

ほくでんネットワーク

- 今冬の需要見通しは、過去10年で最も厳寒であった年度並みの気象影響を織り込んで想定しています。
- 一方、供給力見通しは、安定的に見込める供給力を積み上げた上で、その一部が計画外停止等により利用できなくなる可能性を考慮しています※。

※計画外停止率2.6%(全国一律)を考慮

【需要見通し】



（万kW）	12月		1月		2月		3月	
	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半
過去10年で最も厳寒な年度	2017	2017	2020	2022	2022	2022	2020	2024
最大需要時(10時)	488	488	521	573	573	500	500	454
最小予備率時(19時)	501	501	491	527	527	464	464	432

・過去10年間で最も厳寒であった年度並みの気象影響を織り込んだ１日の需要を想定
・全国の最大需要時(10時)および最小予備率時(19時)の需要を採用

【供給力見通し】

・北海道エリア内の安定的に見込める供給力を積み上げ
12月：630万kW程度　1～２月：650～670万kW程度
３月：600万kW程度

電力広域的運営推進機関が広域的な視点に基づき、連系線の活用等を考慮して評価
（ｐ４参照）

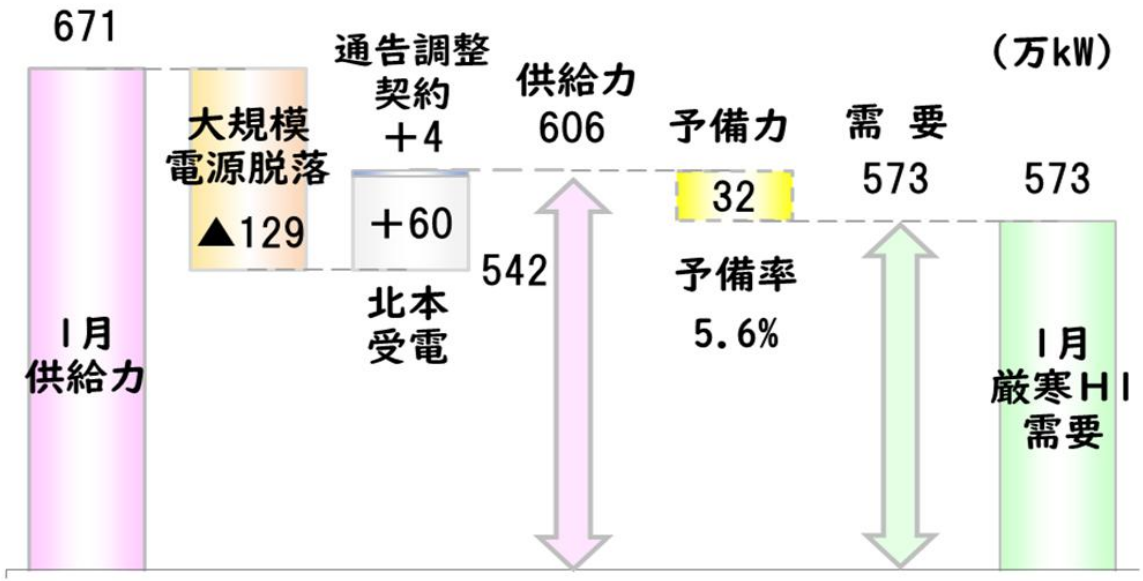
【参考２】大規模な計画外停止発生時の状況

ほくでんネットワーク

- 北海道の冬季の厳しい気象状況を踏まえ、大規模な発電設備の計画外停止の発生※を想定したケースにおける需給状況の確認も行われています。
- 大規模な発電設備の計画外停止が発生した場合でも、北本連系設備からの受電等により、10年に１度の厳寒を想定した需要に対して、電力の安定供給に最低限必要となる供給予備率３％を確保できる見通しです。

※129万kW(過去10年における最大の電源停止実績)の設備トラブルを仮定

【大規模な計画外停止発生時の状況（１月後半）】



【各期間の予備率】

	予備率
12月前半	15.0%
12月後半	14.3%
１月前半	14.3%
１月後半	5.6%
２月前半	8.2%
２月後半	20.1%
３月前半	10.5%
３月後半	23.5%

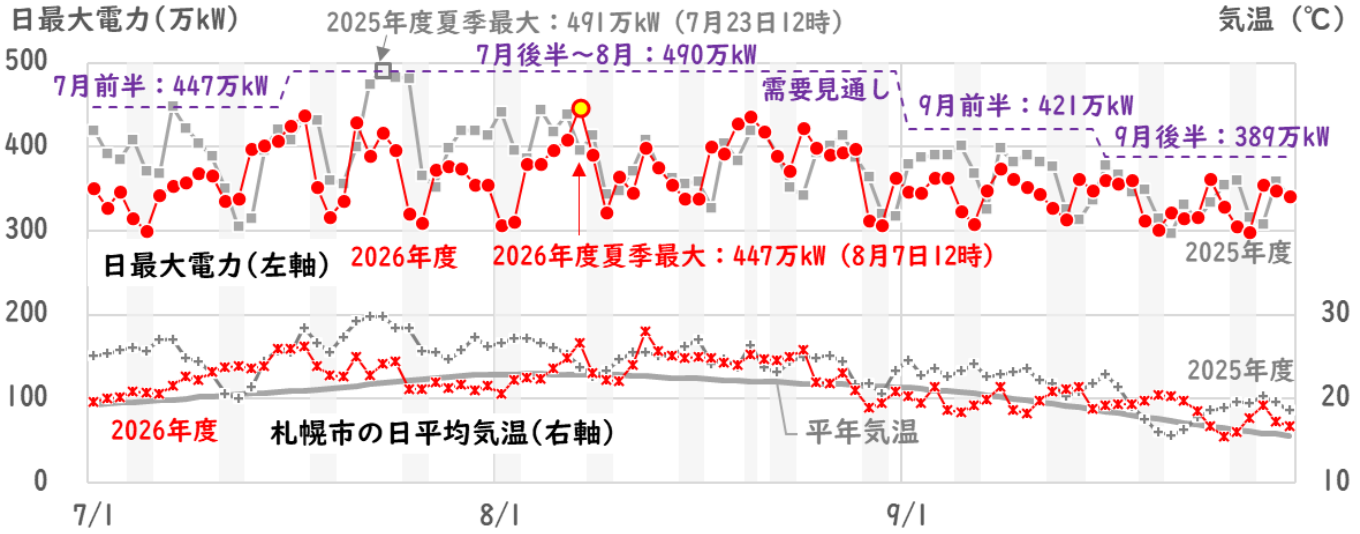
※北本連系設備(容量90万kW)は、新北本第２極増設(2027年度末予定)に伴う作業停止のため、今冬における運用容量は60万kWとなっています。

【参考３】2026年度夏季（今夏）の需給状況

ほくでんネットワーク

- 今夏の最大電力は、４４７万kW（２０２６年８月７日発生）となり、夏季を通じて見通しを下回って推移しました。
- 最大電力発生時の供給予備率は２１．９％となり、電力の安定供給に最低限必要な予備率３％以上の供給力を確保していました。

【日最大電力と札幌市の日平均気温の推移】



【今夏の最大電力発生時の需給実績】

	実績（2026年8月7日12時）	見通し※1
供給力（万ｋW）	５４４	５６９
最大電力（万ｋW）	４４７	４８６
供給予備力（万ｋW）	９７	８３
供給予備率（%）	２１．９	１７．０

※１　見通しは電力広域機関が連系線活用・計画外停止等を考慮して評価したもの
※　四捨五入の関係で合計が合わない場合がある